

# 大学評価学会通信

## 目次

|                     |    |
|---------------------|----|
| ◆ 第14回全国大会へのお誘い     | 1  |
| ◆ 理事会の報告            | 2  |
| ◆ 研究会の報告            | 4  |
| ◆ 東洋大学共催企画の報告       | 6  |
| ◆ 編集委員会からの報告        | 7  |
| ◆ 「青年の発達保障」委員会の活動報告 | 7  |
| ◆ 「漸進的無償化」科研の活動報告   | 8  |
| ◆ 会計の中間報告・寄贈本の一覧    | 9  |
| ◆ 会員動向～バンコク便り～      | 10 |

## 第14回全国大会を龍谷大学で開催します

### 主催校挨拶

第14回全国大会を龍谷大学で開催させていただくこととなりました。

今大会は「大学・大学評価の原点を探る」を大会テーマといたしました。これは、本学会の設立大会において採択され学会の指針となってきた「大学評価京都宣言」に立ち返って、大学と大学評価の原点について考えてみたいという趣旨からのものです。

大学評価学会の大会テーマを振り返ると、その時々の大学や大学評価が直面する課題に、わたしたちなりに探究を試みてきた歴史であったと自負しています。一方、大学評価は大学における教育・研究、そして大学経営に組み込まれており、大学のありようを変容させてきたことも事実です。

このようなもとにあつて、本大会では「大学・大学評価の原点を探る」ことを試みたいと思います。

初日の午前中には例年通り、会員報告の分科会を設けました。2日目の午前中には、2つの分科会を設けています。午後には、永田和宏先生（京都産業大学教授）をお迎えし、記念講演を公開で行います（記念講演は、関係団体の共催を得て開催されます）。

年度末のご多用の時期ですが、多数のみなさまのご参加をお待ちしています。



## 理 事 会 報 告

### 第VI期第6回理事会（議事録）

- ・日 時：2016 年7 月23 日（土）、10：30～12：30
- ・場 所：愛知工業大学本山キャンパス 306 講義室
- ・理 事：出席8名～安東、菊池、重本、西垣、深野、水谷、村上、渡部　／委任状12名～井上、植田、岡山、片山、小池、蔵原、小山、田中、日永、藤原、光本、米津  
／母数20名

#### 【報告事項】

1. 北海道大会の収支報告・・・細川
2. 年報第12号の目次予定・・・西垣
3. 第14 回全国大会@名古屋大学について

#### 【協議題】

1. 東洋大学との共同企画について・・・細川  
→11/19（土）午後の予定で共同企画を進める
2. 日韓シンポジウム第5回・・・渡部  
→「漸進的無償化」科研の一環として「ソウル市立大学の登録金半額化」のその後を扱う　渡部・浅野・光本の3名が打ち合わせのために7月に訪韓する予定
3. シリーズ本について・・・第7巻：川口・西垣、第8巻：蔵原・重本、第9巻以降  
→7巻を活用した学習会を「青年の発達保障」委員会で企画し順次開催する
4. 科研等の申請＝教職協働G・・・深野  
→申請にむけて準備する
5. 附属研究所の構想について・・・重本

### 第VI期第7回理事会（議事録）

- ・日 時：2016 年11 月20 日（日）、10：00～12：00
- ・場 所：「駒澤大学会館246」の「7会議室」（7-1／7-2）
- ・理 事：出席12名～安東、井上、小池、菊池、小山、重本、田中、日永、深野、光本、村上、渡部。委任状8名～植田、岡山、片山、蔵原、西垣、藤原、水谷、米津／母数20名

#### ・報告事項：

1. 2016年度会計の途中報告（12号発行まで）について・・・細川  
2016年11月16日現在の残高＝960,143円／会費納入が堅調に進んでいる
2. 年報第12号の刊行について・・・日永  
2016年12月10日発行の奥付で完成。会員には送付予定。HPに目次をアップ予定。

経費は26万円であった。・・・補足：2016年度年報予算の残額は2017年度に繰り越す形をとりたい。

3. シリーズ本 第8号（蔵原企画）について・・・重本  
修正原稿を編集委員会で検討中。3月の大会or4月からの新年度などを目途に発行できるかを検討する。
4. 東洋大学との共催企画について・・・渡部  
11/19に共催企画が開催された。報告資料をHPにアップ予定。
5. 「青年の発達保障」委員会について・・・（西垣・川口）  
MLで研究交流。研究会を名古屋・大阪（&共催企画@東洋大学）で開催。西垣が基盤研究Cを申請。
6. 「漸進的無償化」科研について（第5回日韓シンポジウムを含む）・・・渡部  
別紙：2017年2月11日午後、ホテルKKRフォーレスト本郷、韓国からゲスト2名＋進藤兵氏
7. 科研費（教職協働）の申請について・・・深野  
基盤研究Bを申請

・協議題

1. 第14回全国大会@龍谷大学（3/4-5）について・・・大会準備委員会（重本・細川・林ほか）
  - ・大会テーマ（案）「大学評価をめぐる対話～大学評価の現状と課題～」（細川）
  - ・初日午後のシンポジウムとは別途に記念講演を組み込みたい（重本）
  - ・上記等の関連で課題研究分科会が二日目の午前ないし午後に3企画を並行させる可能性あり。
  - ・懇親会・・・ケータリングも一案（細川）
2. 同：分科会＋課題研究
  - ・自由論題分科会の募集&締め切り予定＋ポスター発表・・・HPにアップして募集中。
  - ・課題研究＝発達保障（西垣）、教職協働（安東）、高校教育・高大接続（小池）を開催する。  
大学評価の実践と大学経営（細川）はシンポジウム、記念講演等との関係で休会もあり。
3. 同：予算案  
13回大会からの繰り越し64,025円＋大会補助見込み15万円。龍谷大学は会場費不要。
4. 会員の異動  
藤野紀子（高知大学）、瀧本美子（龍谷大学）の2名の入会を承認した。
5. 通信第43号の発行（2017.2.1.見込み）  
後日に渡部から目次案を示して分担執筆の依頼を行う。発行は遅らせて2/1の予定。

## 研究会報告

### 「第49回研究会」の報告

#### 公開研究会「大学評価と青年期の発達保障を考える（1）」報告

本研究会は、『大学評価と「青年の発達保障」』（シリーズ「大学評価を考える」第7巻）の刊行を記念して、2016年7月23日、愛知工業大学にて開催されました。本研究会では、「「市民の力」としての学問の創出をめざし、大学のあり方を考える」をテーマに、中嶋哲彦会員（名古屋大学）と中山弘之さん（愛知教育大学）からそれぞれ報告をいただきました。

中嶋会員からは、「大学・学問の大衆化と大衆の自己解放」と題し、「大学の「大衆化」の否定的認識の転換を試み、今日の高等教育の再編成の問題点が指摘されました。「大学の「大衆化」とは、大学が自らに対する社会的期待・要求を、自分自身の体内にダイレクトに取り込むことを意味する。たとえば、学生の学習要求のなかに大学が社会のために取り組むべき研究課題を見出し、それを教育課程に組み込むことができれば、学生＝大衆による大学づくり・学問創造に道を開くことができるだろう」。学生を含めた全構成員自治が大学・学問の自律性を担保するだけでなく、学問の発展・創造に不可欠であるということです。

次に、中山さんから「短期大学における教育実践と教職員集団」と題し、中山さんがかつて勤務した短期大学に通う学生たちの困難やそれを支える生活指導・授業の実践、さらにそのベースとなる教職員集団のあり方について報告をいただきました。中山さんは、学生が授業内で書いたペーパーをもとに「授業通信」を作成し、学生の記述への応答を大切にしました。ペーパーには自由に書く（描く）ことを尊重し、学生の生活上の意識や授業に対する学生の認識と結びつけた教育を行うことをねらいとしました。

報告後の討論では、専門職大学院の新設による大学での学びの変容、学生が抱える困難の実態とそれを支える教員集団の形成やその条件整備、小川利夫さんの青年期教育論からの有効性などについて活発な議論がなされ、今後、発達保障委員会で深めるべき課題が示されました。

（文責：川口洋誉）

## 「第50回研究会」の報告

日 時：2016年11月20日（日）13:00～15:30

場 所：「駒澤大学会館 2 4 6」の「7 会議室」（7-1／7-2）

報 告 者：細川 孝 氏（龍谷大学）

「大学設置法人の会計基準——国立大学法人と学校法人」

約15名が参加して、第50回研究会が開催された。細川報告の項目は以下の通りである。

はじめに：論題の変更／経営学と会計学／大学設置法人の会計基準／本報告の課題

I. 企業会計の基本：1.企業の財務諸表／2.企業会計原則

II. 国立大学法人の会計基準：1.国立大学法人の財務諸表／2.国立大学法人会計基準／3.貸借対照表の特徴／4.損益計算書の特徴／5.利益処分の特徴／6.国立大学法人等業務実施コスト計算書

III. 学校法人の会計基準：1.学校法人の財務諸表／2.学校法人会計基準の特徴

参考書としては、青木志帆（2015）『制度とおカネのよもやま話～国立大学法人会計入門～』学校経理協会、野中郁恵ほか（2001）『私立大学の財務分析ができる本』大月書店が紹介された。

なお、水谷勇（神戸学院大学）報告「（仮）アメリカ合衆国における学費高騰の現状と対策」は体調不良により中止となったが、第14回全国大会@龍谷大学の第一分科会において発表予定である。



## 東洋大学共催企画の報告

### 青年・若者と大学 —男女共学100周年によせて—

日時：2016年11月19日（土）午後

場所：東洋大学（白山キャンパス）

概要：東洋大学が男女共学100周年を迎える節目の年に何か共同企画ができないかと相談があり、会員の協力も得て開催することができました。以下の報告は、大学評価学会HPにアップされています。ぜひ、ご覧ください。

紀 葉子 氏（東洋大学／社会学）：

マイノリティと大学——排除・多様性・包摂

西垣 順子 氏（大阪市立大学／発達心理学）：

「みんなに届く大学教育」の探究——青年の発達保障の観点から

朴木 佳緒留氏（元神戸大学／教育学）：

大学教育の形式的機会均等から実質的機会均等へ

## 青年・若者と大学 —男女共学100周年によせて—

【日時】2016年11月19日（土）午後2～5時

【場所】東洋大学（白山キャンパス）6号館2階6203教室

講演1：2:05～2:40 紀 葉子 氏（東洋大学／社会学）  
マイノリティと大学——排除・多様性・包摂



講演2：2:45～3:20 西垣 順子 氏（大阪市立大学／発達心理学）  
「みんなに届く大学教育」の探究  
——青年の発達保障の観点から



講演3：3:25～4:00 朴木佳緒留氏（元神戸大学／教育学）  
大学教育の形式的機会均等から実質的機会均等へ



ディスカッション：4:10～4:55

司会：渡部昭男（大学評価学会）・川口洋誉（同「青年の発達保障」委員会）

主催：大学評価学会／大学評価学会「青年の発達保障」委員会  
共催：東洋大学／東洋大学男女共学100周年実行委員会

参加費無料  
事前予約不要

## 年報編集委員会報告 (2017.01.23)

昨年12月10日に大学評価学会年報第12号「若者、地域とともに育つ大学」が刊行されました。今号から印刷会社を変更したことに伴い、表紙デザインを一新した他、表紙裏に本学会の活動の指針ともいえる「大学評価京都宣言」を掲げ、英文目次を裏表紙に移すなど、大幅な見直しを行いました。また、ISSN（国際標準逐次刊行物番号）を取得したことで、今号以降の掲載論文が国会図書館のNDL-OPACやCiNiiで検索できるようになります。

現在、年報13号（本年7月刊行予定）を鋭意編集集中です。13号掲載の論文等については投稿受付を締め切っておりますが、14号（2018年7月刊行予定）への投稿については、執筆要領にあるように、本年7月末日までに投稿の「予告」を年報編集委員会宛にお送りください。書式は問いません。第14回大会でのご報告予定者を始め、広く会員の皆様のご投稿をお待ちしています。

（文責 日永龍彦）

## 「青年の発達保障」委員会の活動報告

平成28年5月に発足した「青年の発達保障」委員会では、これまでに次のような活動を行いました。

### 1. メーリングリストを作成しました。

現在の登録者は27名です。どなたでも登録できますので、ご希望があれば西垣までご連絡ください。また平成30年度以後の分科会の報告者は、本MLを利用して募ることにしたいと考えています。皆様からのご応募をお待ちしています。

### 2. 「シリーズ大学評価を考える」の第7巻となる『大学評価と「青年の発達保障」』を5月に発行しました（編集委員長：川口洋誉）。

### 3. 2つの公開研究会を開催しました。

- ・「『市民の力』としての学問の創出をめざし、大学のあり方を考える」

（7月23日@愛知工業大学本山キャンパス）

講演：中嶋哲彦「大学・学問の大衆化と大衆の自己解放」、中山弘之「短期大学における教育実践と教職員集団」

- ・「青年・学生とともに育つ大学に問われるもの」

（10月1日@龍谷大学梅田キャンパス）

講演：春日井敏之「社会とつながって自分を生きるための支援—青年期の序列化・孤立化と大学における学び」、堀詩織「ブラックバイトから考える私たちの学び」

### 4. その他

- 11月19日開催「青年・若者と大学—男女共学100周年によせて—」に、大学評価学会との共催という形で協力しました。
- 科研費基盤Cに申請「青年の発達推進力となる大学学習要求の充実過程とその支援実践研究および評価法開発」（代表：西垣、分担：川口・米津、連携：伊田、田澤（非会員）

（文責 西垣順子）

## 「漸進的無償化」 科研2016年度の活動概要

テーマ：後期中等・高等教育における「無償教育の漸進的導入」の原理と具体策に係る総合的研究

研究種目：基盤研究(B)、代 表：渡部昭男

グループ：無償思想、法原理・学生調査・米国、政策動向、高校・高大連携、地域研究(1)北海道、地域研究(2)山陰、アジア研究、経営、青年期の8G。

### 【公開研究会】

(1) 2016.7.16. (土) 10:00～12:30、龍谷大学・大宮学舎

○戸塚 悦朗氏（元弁護士。元龍谷大学法科大学院教授）：国際人権A規約13条2項(b)(c)「無償教育の漸進的導入」留保撤回（2012.9.）後の研究運動の課題と展望——2018年「政府報告書」の提出にむけて

(2) 2016.9.3. (土) 9:30～13:00、龍谷大学・深草キャンパス

○大岡 頼光氏（中京大学教授）：高等教育の公費負担の逆進性問題をどう乗り越えるべきか

○佐野 修吉氏（兵庫・奨学金の会）：奨学金・ブラックバイト・生活実態調査から見える若者の貧困

(3) 2016.11.19. (土) 10:30～12:30、東洋大学・白山キャンパス

○今中 政輝氏（東京大学生産技術研究所 特任研究員）：世帯収入400万円以下家庭の授業料免除@東京大学」のインパクト——創設の経緯、仕組み、現状と課題

(4) 2016.12.17. (土) 13:00～17:00、キャンパス・イノベーションセンター東京

○江利川 春雄氏（和歌山大学教授）：経済格差と英語教育

○永島 民男氏（全国私教連委員長）：私学助成運動と教育費の無償化

(5) 2017.3.3. (金) 14:00～17:00、龍谷大学・深草キャンパス

テーマ：「無償教育の漸進的導入」と大学評価基準

○重本 直利氏（龍谷大学）：大学ガバナンスと社会的公共性の確立——「無償化プログラム」の可能性——（仮）

○堀 雅晴氏（立命館大学）：J U A A選書15『大学評価の体系化』をめぐって①（仮）

○細川 孝氏（龍谷大学）：J U A A選書15『大学評価の体系化』をめぐって②（仮）

### 【特別企画】

(1) 2016.8.23. (火) 17:00～19:00、北海道大会高等教育推進機構

○宋 善英（ソン・ソニョン）氏（韓国大学教育協議会Korean Council for University Education :KCUE 研究員）：韓国の高等教育をめぐる動向と情勢——期成会費訴訟、国立大学会計制度、大学評価

(2) 2016.12.17. (土) 9:15～11:30、キャンパス・イノベーションセンター東京

○尹 敬勲（ユン・フギョン）氏（流通経済大学准教授）：韓国における「大学構造調整」政策と大学評価

### 【日韓シンポジウム】

第2回：2017.2.11. (土) 13:00～17:00、ホテルKKR「フォーレスト本郷」会議室

○朴 巨用（パク・コヨン）氏（祥明大学校教授／大学教育研究所（HEI）理事長）：登録金半額化と若者支援をめぐるガバナンス（その1）@ソウル特別市（市長—議会—市民）

○鄭 炳浩（チョン・ビョンホ）氏（ソウル市立大学教授／ロースクール研究科長）：登録金半額化と若者支援をめぐるガバナンス（その2）@ソウル市立大学（大学運営委員会—総長—教員・職員—学生・院生）

○進藤 兵氏（都留文科大学教授／東京自治問題研究所理事長）：学費半額化と若者支援をめぐる都市／大学のガバナンス：首都ソウルvs.東京

## 会計報告

残高（2016年12月31日現在）760,947円

内訳：現金28,595円、郵便振替口座732,352円

※ 以上には、一般会計、全国大会特別会計、シリーズ本特別会計を含みます。

第13回全国大会（2016年5月14日～15日）については、以下の通りです。

### 【全国大会 特別会計】

|              | 2016年度決算 | 2016年度予算 |
|--------------|----------|----------|
| 前期大会繰越金      | 0        | 0        |
| 全国大会（第13回大会） | 268,406  | 240,000  |
| 開催補助（一般会計から） | 150,000  | 150,000  |
| 参加費          | 94,000   | 90,000   |
| 雑収入          | 24,406   | 0        |
| ＜収入合計＞       | 268,406  | 240,000  |
| 会場費          | 112,000  | 90,000   |
| 講師等謝金・旅費     | 70,000   | 70,000   |
| アルバイト代       | 16,000   | 20,000   |
| 諸雑費          | 6,381    | 10,000   |
| 予備費          |          | 20,000   |
| ＜支出合計＞       | 204,381  | 210,000  |
| ＜次期大会・繰越金＞   | 64,025   | 30,000   |

注)

1. 雑収入は、懇親会参加費（132,000円）と懇親会に要した費用（107,594円）の差額である。
2. 諸雑費は、宅急便代（3,688円）、茶菓代（1,829円）、送金手数料（864円）の合計である。なお、茶菓代は一部、懇親会開催費用にも含まれている。

### 寄贈本の一覧

生和秀敏・大学基準協会高等教育のあり方研究会『大学評価の体系化』（JUA選書15）東信堂、2016年10月。

久保田貢『考えてみませんか9条改憲』新日本出版社、2016年12月。

南 徹彦『ローカル大学と共に 「改革」のうねりの中で』エイデル研究所、2016年12月。

※ 事務局に届いた順に記載しています。

## 大阪大学ASEANセンター訪問記

小池 由美子

12月25日から29日まで、筆者は日本学校教育学会のタイ・スタディーツアーでバンコクのエ教育視察を行った。参加者は、大学教授、高校教師、大学院院生である。事前に大学評価学会の渡部事務局長から碓井先生を介して、今回の視察についてバンコクの望月先生に連絡を取っていただき準備を進めた。出発前から望月先生はメールで何度もタイの状況を筆者に教えてくださった。10月13日にプミポン国王が崩御され、公務員は1年間の喪に服しているので、公式な場所を訪問する際は喪服までとは言わなくても、服装には配慮する必要があること等を御教示いただいた。

望月先生は、大阪大学ASEANセンターの所長をされている。タイのみならず東南アジア諸国を飛び回り、大変なご活躍である。

大阪大学ASEANセンターの機能は何か？望月先生に「所長として、一番やりたいことは何ですか？」とインタビューさせていただいた。望月先生は、大阪大学ASEANセンターのミッションを踏まえ下記のように語ってくださった。



(大阪大学ASEANセンター オフィス)

### 1. 大阪大学の留学生のリクルート

大阪大学として、東南アジア諸国からの留学生には、自分の専攻に限らず広い視野を持って日本に留学して欲しいと考えて活動している。

### 2. 学術交流

大阪大学の教員の国際交流が円滑に行くようにサポートすることである。バンコクには約67,000人の邦人がおり、大阪大学バンコク公開講演会を年1回、日タイ新興再興感染症共同研究センターと共催で行っている。ノンタブリ県の保健省キャンパス内に同センターの施設があり、日本人とタイ人のスタッフ約10名が研究に従事している。デング熱、チクングニア熱、HIV、ジカ熱などの細菌及びウイルスによる感染症の研究を行っている。

「感染症と私たちの健康」というテーマで公開講演会を行っており、今年で11回目になる。現地での社会貢献活動を点から面へと拡大したいと思っている。大阪大学が、「バンコクセンター」を「ASEANセンター」へと発展させた理由もそこにある。

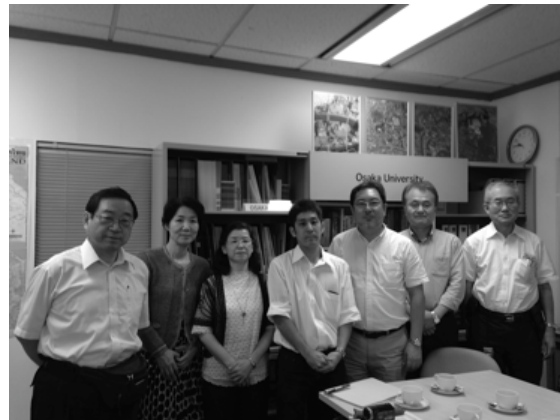
### 3. タイ同窓会の組織

国立大学の法人化以前は、タイからの留学生が卒業すると、その後は各学部任せきりになってしまっていたが、以後、卒業後も元留学生のネットワークを作ることが大切だと認識した。大阪大学タイ同窓会は約300人組織しているが、その内の約200人はタイから

の元留学生である。元留学生の話を聞いてみると、研究に役に立つということがビジネスの役に立っていることを再確認できた。元留学生が自分の子女を大阪大学に留学させてくれるように働きかけたい。関西経済同友会からの要請に応え、元留学生のネットワークを活用した産学連携も行っている。



(右奥が望月先生)



(右から3人目が望月先生)

#### \* 留学生情報

国費留学生はたまたま大阪大学で学ぶことになるわけだが、「大阪大学に留学できて良かった」という結果が出せれば良い。大学院から留学する学生は、ほぼ英語だけで講義を受ける。留学生のほぼ8割が工学系で学んでいる。学部への留学生は日本語で講義を受けるが、やはり日本語で学んだ留学生の方が日本への愛着が強い。大阪大学のインターナショナルカレッジを卒業した後、アメリカやイギリスの大学院に進学するというケースも多い。

大阪大学の場合、留学生の総数は約2000人で約8割がアジアからの留学生である。その内、中国からは800人くらい、韓国からは300人くらい、そしてタイから100人くらい、続いてインドネシアやベトナムからである。私費留学生は5～6割で、タイも中産階級が増えている。

短時間ではあったが、大変有意義なタイとアジアの高等教育事情を伺うことができた。



#### 2017年度の会費請求について

大学評価学会の会計年度は、3月1日～翌年2月28日となっております。3月下旬頃に会費の請求書を送付させていただく予定ですので、早期の納入にご協力ください。

## 【大学評価学会の日誌】

- 2016年 7月16日（土）「漸進的無償化」科研公開研究会（1）（於：龍谷大学大宮学舎）  
7月23日（土）第49回研究会（公開研究会「大学評価と青年期の発達保障を考える（1）」を兼ねる）、第VI期第6回理事会（於：愛知工業大学  
本山キャンパス）  
8月23日（火）「漸進的無償化」科研2016特別企画（1）「日韓共同研究」  
（於：北海道大学）  
9月3日（土）「漸進的無償化」科研公開研究会（2）（於：龍谷大学深草学  
舎）  
10月1日（土）公開研究会「大学評価と青年期の発達保障を考える（2）」（於：  
龍谷大学梅田キャンパス）  
11月19日（土）「漸進的無償化」科研公開研究会（3）（於：東洋大学）  
シンポジウム（東洋大学との共同企画）「青年・若者と男女共学100  
周年によせて」（〃）  
11月20日（日）第VI期第7回理事会、第50回研究会（駒沢大学会館246）  
12月17日（土）「漸進的無償化」科研公開研究会（4）（於：東京工業大学田町  
キャンパス）

### <予定>

- 2017年 2月11日（土）「漸進的無償化」科研第2回日韓シンポジウム（於：ホテルKKR  
「フォーレスト本郷」）  
3月 2日（木）会計監査（於：龍谷大学深草学舎）  
3月 3日（金）「漸進的無償化」科研公開研究会（5）（〃）  
3月 4日（土）～ 5日（日）第14回全国大会（〃）  
3月 4日（土）第VI期第8回理事会（〃）  
3月 5日（日）第VI期第9回理事会（〃）

---

編集・発行：大学評価学会

〈学会事務局〉 〒657-8501 神戸市灘区鶴甲3-11 神戸大学  
発達科学部 渡部昭男研究室  
Tel/Fax：078(803)7726（渡部）  
e-mail: [akiowntnb@port.kobe-u.ac.jp](mailto:akiowntnb@port.kobe-u.ac.jp)  
〈事務連絡先〉 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67 龍谷大学  
（会費・発送・HP管理） 経営学部 細川孝研究室  
Tel/Fax：075(645)8634（細川）  
e-mail: [hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp](mailto:hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp)  
URL：<http://www.unive.jp/>

---

〈会費納入先〉 郵便振替口座番号：00950-4-296005 名称：大学評価学会

---